

プロフェッショナリズム

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

信頼

誠実に振る舞い、自ら省察し、患者の自律性を尊重するとともに、説明責任を果たす

誠実さ

1. どのように行動すれば患者や社会に対して誠実に振る舞えるか？
2. 社会から信頼される専門職集団であるためにはどのように行動すればよいか？
3. どのように行動すれば守秘義務を遵守できるか？

省察

1. どのようにすれば自分自身の限界を適切に認識できるか？
2. 他者からのフィードバックを受け入れられるにはどのような心持ちでいればよいか？

説明責任

1. わかりやすく正確な説明を行うにはどのようにすればよいか？

自律性

1. 患者が適切に意思決定できるようするためにはどのように支援すればよいか？

思いやり

品格と礼儀を持って、他者を適切に理解し、思いやりを持って接する

思いやりと利他

1. 患者を含めた他者に思いやりをもって接するにはどのように行動すればよいか？
2. 利己と利他をどのように両立させるか？
3. 自分自身の精神的・身体的健康をどのように管理すればよいか？

他者理解と自己理解

1. 他者を理解するためにはどのようなことを知る必要があるか？

2. 他者を適切に理解するための妨げとなる自分や自集団の偏見とはどのようなものか？

品格・礼儀

1. 礼儀正しく振る舞うにはどのように行動すればよいか？
2. 医師に求められる品格とは何か？

社会正義

社会的公正を実現する

医療資源の公平な分配

1. 医療資源を公平に分配するにはどのように行動すればよいか？（保留）

総合的に患者・生活者をみる姿勢

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

全人的な視点とアプローチ

患者の抱える問題を臓器横断的だけでなく心理・社会的視点で捉え、専門領域にとどまらない姿勢で責任をもって診療に関わり、最善の意思決定や行動科学に基づく臨床実践に関与できる。

臓器横断的な診療

1. 臓器横断的に医学的課題を捉えることができる。
2. 適切な医療機関や診療科につなぐ重要性について概説できる。
3. 主訴に応じて適切な鑑別疾患を挙げることができる。
4. 臨床推論の基本的なフレームワークを概説できる。
5. 主訴に応じて必要な問診・身体診察をすることができる。
6. 未分化で多様かつ複雑な健康問題を概説できる。
7. 多疾患併存や複数臓器にまたがる疾患のパターンや介入方法を概説できる。
8. ポリファーマシーのパターンや介入方法を概説できる。

生物・心理・社会的な問題への包括的な視点

1. 身体・心理・社会の問題を統合したアプローチについて概説できる。
2. 個人・家族の双方への影響を踏まえたアプローチについて概説できる。
3. 性別、国籍、障害、宗教など多様な背景を持つ患者の価値観を尊重できる。

4. トラウマ・インフォームドケアの対応について概説できる。

患者中心の医療

1. 個々の患者の医療への期待、解釈モデル、健康観を聞き出すことができる。
2. 患者の社会的背景（経済的・制度的側面など）が個々の病いに及ぼす影響を概説できる。
3. 医療者と患者が共通の理解基盤を築くための方法を概説できる。
4. 患者中心性が医療の質に及ぼす影響を概説できる。
5. 医療の継続性を概説できる。

根拠に基づいた医療

1. 根拠に基づいた医療の5つのステップを列挙できる。
2. Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome <PICO (PECO)> を用いた問題の定式化ができる。
3. データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。
4. 得られたエビデンスの批判的吟味ができる。
5. 診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。
6. 診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを説明できる。
7. 得られたエビデンスを目の前の患者に適用できる。

行動科学

1. 動に関する知識や理論、面接法を予防医療（0次-3次予防）、診断、治療、ケアに適用することができる。
2. 適切な環境調整や心身医学療法も含めた包括的な心身への治療、支援を提案し、実践することができる。
3. 行動変容の原則を理解し、動機付けや行動変容を促す面接を行うことができる。
4. 医療者や患者・生活者のバイアスの存在を踏まえ、医療行動経済学の視点からバイアスを考慮したコミュニケーションをとることができる。
5. 々の行動予測を踏まえ、医療行動経済学の視点から望ましい選択肢を選びやすくなるような仕組みを提案できる。

地域の視点とアプローチ

地域の実情に応じた医療・介護・保健・福祉の現状及び課題を理解し、医療の基本としてのプライマリ・ケアの実践、ヘルスケアシステムの質の向上に貢献するための能力を獲得する。

プライマリ・ケアにおける基本概念

1. 地域の健康格差を理解し、医療へのアクセス障害等の医療システム上の課題を適切に判断しながら診療を行うことができる。
2. 地域の健康問題の文化的背景を理解し、言語や文化の障壁を乗り越えた診療対応について説明できる。

3. 患者の診療において、患者の所属する地域、背景集団に対するケアの視点を取り入れた診療を行うことができる。

地域におけるプライマリ・ケア

1. 地域 (都会・郊外・へき地・離島を含む) の実情に応じた医療の状況について概説できる。
2. 地域の医療提供体制に基づき、診療機関の規模・役割に応じた柔軟な医療を提供する。
3. 患者の居住する地域の頻度の高い疾病 (コモンディジーズ) について罹患率、有病率などの指標を用いて概説できる。
4. 患者の居住する地域について医療以外も含めた客観的指標や観察を通して、地域の健康課題を特定し、地域社会のリソースを活用しながらその改善計画を提示できる。
5. 地域の住民や専門職と協働して、地域住民に対する健康増進活動を計画・実践することができる。
6. 患者の居住する地域の頻度で高い疾病 (コモンディジーズ) についてプライマリ・ケアの対応を説明できる。
7. 新型コロナウイルス感染症など地域全体の医療問題が起きた際に、専門領域を超えて地域医療で必要な医療を提供できる。

医療資源に応じたプライマリ・ケア

1. 医療を提供する上で必要となる、様々な専門職や医療保険・介護保険施設など地域の資源を説明できる。
2. 人的・物的資源を利活用して医療・サービスを提供できる。
3. 離島・へき地や医師不足地域等の医療医療資源が限られた状況での医療提供体制及び介護・保健・福祉の体制を説明できる。
4. 離島・へき地や医師不足地域等の医療資源が限られた状況で有効な Point-of-Care 検査等の医療提供方法を状況に応じて創意工夫して対応することができる。
5. 離島・へき地や医師不足地域等の医療資源が限られた状況での医療に積極的に貢献することができる。

人生の視点とアプローチ

患者・生活者の成長、発達、老化、死のプロセスを踏まえ、経時的に患者・家族・生活者に起こり得る精神・社会・医学的な問題に関与できる。

人生のプロセス

1. ライフサイクル (胎児期・幼児期・小児期・思春期・青年期・老年期・終末期) の視点で、個別の事例を分析できる。
2. ライフステージ (進学や結婚、出産によって、家計や家族構成が変わること) やライフイベント (就職、結婚、出産、退職など、人生の中で重要な出来事) の視点で、個別の事例についての健康管理 (食生活、運動など) と環境・生活習慣改善 (環境レベル、知識レベル、行動レベルと行動変容) を分析できる。
3. 家族ライフサイクル (新婚夫婦、乳児・学童・思春期の子供を育てる時期、巣立ち、老年など) ・家族成員間関係・家族システム (家族のストレス、住居や経済的な問題、親子の孤立など) の視点で、患者の課

題や家族間の虐待・ネグレクト等を説明できる。

胎児・幼児期

1. 胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
2. 新生児・乳幼児の生理的特徴の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
3. 正常児・早産低出生体重児・病児の管理の基本の知識を活用して、個別の事例を分析できる。

小児期

1. 小児期の生理機能の発達の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
2. 小児期の正常な精神運動発達の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
3. 小児期の愛着形成や保育法・栄養法の基本の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
4. 小児期の栄養面での特性や食育の基本の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
5. 小児期の免疫発達と感染症の関係の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
6. 小児保健における予防接種の意義と内容を説明できる。
7. 児童虐待・ネグレクトの知識を活用して、個別の事例を分析できる。

思春期・青年期

1. 思春期発現の機序と性徴の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
2. 思春期と関連する課題(学業、友達などに関わる課題)の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
3. 青年期と関連する課題(生殖、いのちなどに関わる課題)の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
4. 成人期と関連する課題(メンタルヘルス、仕事、不妊などに関わる課題)の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
5. 小児期から成人期への医療の移行について、現状と課題を説明できる。

老年期

1. 加齢に伴う臓器や身体機能の変化、それに伴う生理的变化の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
2. 高齢者総合機能評価 (comprehensive geriatric assessment) の視点で、個別の事例を評価できる。
3. 老年症候群(歩行障害・転倒、認知機能障害、排泄障害、栄養障害、摂食・嚥下障害等)の視点で、個別の事例を分析できる。
4. フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念、その対処法、予防の知識を使って、個別の事例を分析できる。
5. リハビリテーションの視点で、CGA をもとにした ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
6. 高齢者の栄養マネジメントの視点で、個別の事例を分析できる。
7. 加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を踏まえ、適切な介入が実施できる。
8. 高齢者の退院支援をするために必要な介護保険制度のサービスを説明できる。

終末期

1. 死に至る身体と心の過程の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
2. 死に至る患者や家族の個別の事例における身体と心の変化、死生観に配慮できる。
3. 人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での患者とのコミュニケーション、頻度の高い苦痛とその対処法・ケアの知識を活用して、個人の事例を分析できる。
4. 水・補液、栄養管理を含む人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）と小児の特殊性の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
5. 人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での意思決定（Advance care planning (ACP)）、事前指示（Advanced directive (AD)）、延命治療、Do not attempt resuscitation、尊厳死と安楽死、治療の中止と差し控えの概念の知識を活用して、個別の事例を分析できる。
6. 患者の死後の家族ケア（悲観のケア（グリーフケア））の知識を活用して、個別の事例を分析できる。

社会の視点とアプローチ

文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人びとの言動・関係性を理解し、文化人類学・社会学（主に医療人類学・医療社会学）の視点から、それを臨床実践に活用することができる。

医学的・文化的・社会的文脈における健康

1. 健康の定義、健康に関わる要因、健康寿命、健康生成論（サルトジェネシス）、ウェルビーイング、障害と疾病の概念と社会環境（機能障害、活動制限、参加制約、生活の質、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等）を説明できる。
2. 患者が受療に至るまでにどのような過程があるかを生活者の視点から説明できる。
3. 栄養素、エネルギー代謝、食事摂取基準と栄養状態の評価（日本人の食事摂取基準、食事調査、身体計測）、食生活と健康増進（国民健康・栄養調査、食生活指針、食事バランスガイド）を説明できる。
4. 身体活動・運動の定義、効果とその機序、評価法・指導法（種類・強度・頻度・時間）、国民の現状と推進対策（国民健康・栄養調査など、国内外の身体活動ガイドライン）を説明できる。
5. 休養・心の健康（睡眠の量と質、睡眠不足・睡眠時無呼吸・交代勤務等と生活習慣病、不眠、健康づくりのための睡眠指針、休養の心身への効果、ストレス対策、過重労働対策、自殺対策）を説明できる。
6. 喫煙（能動喫煙及び受動喫煙の状況、有害性、健康影響、受動喫煙防止、ニコチン依存症と禁煙支援）、飲酒（飲酒の状況、有害性、健康影響、アルコール依存症からの回復支援）を説明できる。
7. 健康の社会的決定要因とアドボカシーについて説明できる。

社会科学

1. 人の言動の意味をその人の人生史・生活史や社会関係の文脈の中において検討することができる。
2. 患者やその家族、生活環境、地域社会、そして病院等の組織等について理解し共有するために、エスノグラフィ等の質的記述的研究の基本的な視点や方法（参与観察やインタビュー）を用いることができる。
3. 病人役割等の理論や概念を用いて、患者の行動や医療に関する社会的な諸事象を説明することができる。

生涯にわたって共に学ぶ姿勢

絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、安全で質の高い医療を実践するために生涯にわたって自律的に学び続け、また積極的に教育に関わっていく。

医療の質と患者安全

医療の質と患者安全の観点で自己の行動を省察し、組織改善と患者中心の視点を獲得する

患者安全

1. 患者安全のための個人および組織におけるリスク管理の重要性を理解する。
2. 医療現場における報告・連絡・相談を実践し、記録の重要性を理解する。
3. 患者や介護者と協働するための情報共有を理解できる
4. 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害、医療過誤、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明できる。
5. 患者安全のための管理体制と各々の役割（リスクマネージャー、医療安全管理委員会等）を概説できる
6. 医療関連感染症の原因と対策（院内感染対策委員会、院内感染サーベイランス、院内感染対策チーム (infection control team)、感染対策マニュアル等）を概説できる。

医療の質

1. 品質改善の手法を用いて医療を改善する

医療従事者の健康管理

1. 医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明できる。
2. 標準予防策 (standard precautions) の必要性を説明し、実行できる。
3. 医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

生涯学習

生涯学び続ける価値観を形成する

生涯学習の意義と方略

1. 生涯学習の重要性を説明できる。
2. 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。

キャリア開発

1. キャリア開発能力を獲得する。
2. キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解する。

医療者教育

医師・医学生に限らず同僚や後輩を含む医療者への教育に貢献する

医療者教育の意義と方略

1. 個人として、チームとして成長するための協働学習を経験する
2. インストラクショナルデザインの基本的な枠組みを理解し、それを実践できる
3. フィードバックについての基本的な枠組みを理解し、それを実践できる
4. 成人学習理論の基本的な枠組みを理解し、それを意識した教育を提供できる

科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

専門知識に基づいた問題解決能力

医学および関連する学問分野の知識を身に付け、根拠に基づいた医療を基盤に、経験も踏まえながら、患者の抱える問題を解決する。

- 1.

2.

医学一般

1.

人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

1.

全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療

1.

情報・科学技術を活かす能力

発展し続ける情報社会を理解し、人工知能を含めた高度科学技術を活用しながら、医療・医学研究を最適化する。

情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール

医療や研究等の場面で、情報科学技術を取り扱う際に必要な倫理観・デジタルプロフェッショナリズム・及び基本的原則を理解する。

情報・科学技術に向き合うための準備

1. 情報・科学技術を医療に活用することの重要性と社会的意義を認識する。
2. 医療における情報・科学技術に関連する規制（法律・ガイドラインを含む）を説明できる。
3. デジタルデバイドによる医療格差や個人情報漏洩など、情報・科学技術を医療に活用するにあたり起こりうる倫理的問題を議論できる。

情報・科学技術利用にあたっての倫理観とルール

1. 電子診療録（カルテ）をはじめとする医療情報の管理・保管の原則について理解し、関連する規制（法律、倫理基準、個人情報保護のための規定など）を遵守できる。
2. ソーシャルメディア（インターネット、SNS など）などの利用における医療者として相応しい情報発信のあり方を理解できる。

医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理

安全かつ質の高い医療・医学研究に必要な情報・科学技術に関する基本理論を理解し、その知識を自身の学習や医療への適応する姿勢を体得する。

情報・科学技術を活用した医療

1. コンピューター、タブレット端末、モバイル端末によるインターネットやモバイルアプリの活用手法に関する知識と技能を有し、学習及び医療実践に活用できる。
2. 情報・科学技術を用いて収集した情報およびデータを適切に分析・総括し、問題解決を図る。

情報・科学技術の先端知識

1. 情報・科学技術を用いた遠隔医療、医療に関連する人工知能の概念を理解し、その概念的知識を学習や医療への適応することについて情報・科学技術の専門家と議論できる。
2. 新たに開発される情報・科学技術に順応し、それらを自身の学び及び医療に活用する習慣を身につける。

診療現場における情報・科学技術の活用

遠隔医療を含む患者診療、及び学習の最適化に有効な ICT ツールの実践スキル、デジタルコミュニケーションスキルを修得する

情報・科学技術を活用したコミュニケーションスキル

1. 電子カルテや診療において曖昧な表現や複数の意味を有する略語を避け、適切な表現、記述（時制など）ができる。
2. 遠隔コミュニケーション（電子メール、テレビ会議システム、SNS）において、適切なコミュニケーションができる

情報・科学技術を活用した学習スキル

1. 自己学習や協同学習の場に適切な ICT（eラーニング、モバイル技術など）を活用できる
2. 既存の医療関連デジタル技術（医療情報システム、モバイルアプリ、ウェアラブルデバイス、人工知能、遠隔医療技術など）の理解を基盤とし、新たに登場する情報・科学技術について探索的に学ぶ。

患者ケアのための診療技能

安全で質の高い医療を実践するために、匠（たくみ）としての技（診療技能）を磨き、それを遺憾無く発揮して診療を実践する。

患者の情報収集

患者本人、家族、医療スタッフなど関係する様々なリソースを活用し、診療に必要な情報を収集できる

病歴

1. 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。

身体所見

- 1.

検査結果

- 1.

治療経過

- 1.

患者情報の統合、分析と評価、診療計画

得られたすべての情報を統合し、様々な観点から分析し、必要な医療について評価した上で提供すべき医療を計画できる

カルテ記載

- 1.

臨床推論

- 1.

検査計画

- 1.

検査結果分析評価

- 1.

治療計画

1.

治療経過分析評価

1.

教育計画

1.

治療を含む対応の実施

患者の状態の評価に基づいて患者本人、家族、医療スタッフと連携し、必要な医療を提案または実施できる

検査手技

1.

初期対応

1.

治療手技

1.

救命処置

1.

書類の作成

1.

患者ケアに必要な連携

1.

医師カンファレンス

1.

診療経過の振り返りと改善

実施された医療を省察し、言語化して他者に説明し、次回に向けて改善につなげることができる

多職種カンファレンス

- 1.

M&M

- 1.

CPC

- 1.

自己省察とメタ認知

- 1.

コミュニケーション能力

患者及び患者に関わる全ての人と、相手の状況を考慮した上で良好なコミュニケーションをとり、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮

患者のプライバシー、苦痛などに配慮し、非言語コミュニケーションを含めた適切なコミュニケーションスキルにより良好な人間関係を築くことができる。

非言語コミュニケーションの重要性を理解した実践

1. 患者に接するときの身だしなみに気を配ることができる。
2. 患者に接するときの視線、表情、ジェスチャーに気を配ることができる
3. 患者に接するとき傾聴的態度で接することができる

患者のプライバシーへの配慮

1. 患者のプライバシーに配慮できる。
2. 患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。
3. プライバシー保護とセキュリティに充分配慮できる。

4. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

患者・家族への適切なコミュニケーションスキルの活用

1. 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
2. コミュニケーションの方法と技能（言語的と非言語的）を説明し、コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
3. コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。
4. 効果的な対人コミュニケーションを説明できる。
5. 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切なコミュニケーションスキルが使える。
6. 対人関係にかかわる心理的要因を概説できる。
7. 患者・家族に敬意を持った言葉遣いで接することができる

患者の立場の尊重と苦痛への配慮

1. 患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。
2. 患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
3. 患者と家族を感じる放射線特有の精神的・社会的苦痛に対して十分に配慮できる。
4. 患者・家族の話を傾聴し、共感することができる。
5. 患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。
6. 患者に共感的な態度で接することができる

患者の意思決定の支援とそのための情報収集・わかりやすい説明

患者や家族の多様性に配慮し、必要な情報についてわかりやすく説明を行い、患者の主体的な治療やマネジメントに関する最善の意思決定を支援することができる。

患者へのわかりやすい言葉の説明

1. 患者の多様性に配慮し分かりやすい言葉で説明できる。(例：高齢者、小児、障害者、外国人 ← 書き方が難しいですが)
2. 患者の漠然とした不安を受け止め、不安を軽減するためにわかりやすい言葉で説明でき、対話ができる。

患者への行動変容の促し

1. 健康行動や行動変容を行う動機付けを概説できる。
2. 生活習慣病における患者支援（自律性支援）や保健指導を概説できる。

診断仮説に基づいた情報収集の実施

1. 診断仮説を検証するために、診断仮説に基づいた情報収集を実施できる。

インフォームド・コンセントの取得

1. インフォームド・コンセントを得る。
2. 治療やマネジメントに関して意思決定するために、患者側と情報共有や摺り合わせをすることができる。
3. 人生の最終段階における医療（エンド・オブ・ライフ・ケア）での患者とのコミュニケーション、頻度の高い苦痛とその対処法・ケアを説明できる。

患者や家族のニーズの把握と配慮

患者や家族の心理的、社会的背景を広い視野で捉える姿勢を持ち、患者の持つ困難や必要な情報提供に対応することができる。

患者や家族の課題を把握し、必要な情報を得ることができる

1. 患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。
2. 保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加できる。
3. 情報収集には医療面接、身体診察、検査の3つの方法があることを説明できる。

患者や家族の視点から、心理・社会的背景に配慮した診療を行うことができる

1. 家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療に可能な範囲で参加する。
2. 家族や地域といった視点を持ち、保健・医療・福祉・介護との連携を学ぶ。
3. 患者の要望（診察・転医・紹介）への対処の仕方を説明できる。
4. 患者・家族の怒りや悲しみなどの困難な感情を理解し、対応することができる
5. 不確実な状況や医学的に説明困難な症状に配慮した対応ができる。
6. 視覚・聴覚障害などのコミュニケーションが難しい患者に配慮できる
7. 電話やインターネットでの患者診療に対応できる（情報分野か？）

多職種連携能力

保健、医療、福祉、介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

連携の基盤となるアプローチ

患者や利用者、家族、地域の重要な課題について、協働する関係者と共通の目標を設定する過程で、背景が異なることに互いに配慮し、役割、知識、意見、価値を伝え合うことができる。

患者・利用者・家族・コミュニティ中心

1. 患者・利用者・家族の価値観や関心事を、多職種（多学部）に伝えられる。
2. 患者・利用者・家族を中心とした治療やケアの目標を多職種（多学部）と話し合うことができる。
3. 患者・利用者・家族に伝えた内容について、治療やケアに関わる多職種（多学部）と共有できる。

職種間コミュニケーション

1. 自職種（自学部）が把握している情報を、多職種（多学部）に伝えられる。
2. 多職種（多学部）の役割や意見を尊重した返答または問いかけができる。（非言語コミュニケーション含む）
3. 自職種（自学部）の見解を、他職種（他学部）にも理解できる言葉で説明できる。

医師間の紹介と相談

1. 適切な診断・検査・治療を目指すだけでなく、回避可能な合併症を防ぐために、適切な施設/専門科/医師への紹介あるいは相談ができる。
2. 紹介と相談のプロセスにおいて、患者・家族に予想しうる状況を共有できる。
3. 医師間での患者のケアと責任が継続できるよう、医師間での考えや期待を共有し、医師間の責任を明確にできる。

連携に必要とされるアプローチ

自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえ、協働する職種で信頼関係を構築し、時に生じる職種間の葛藤にも適切に対応しながら、互いの知識・技術を活かし合い、職種としての役割を全うできる。

職種役割の貢献

1. 自職種（自学部）がもつ一般的な知識や価値観を、他職種（他学部）に伝えられる。
2. 患者・利用者に対して、多職種（多学部）の中で自職種（自学部）の役割を果たせる。
3. 多職種（多学部）から求められる自職種（自学部）の役割を担える。

関係性への働きかけ

1. 多職種（多学部）と対等な関係を構築できる。
2. 多職種（多学部）と一緒に成長する志を醸成できる。
3. 多職種（多学部）との対人葛藤が起きないようにできる。

自職種の省察

1. 自職種が持ちやすい価値観を説明できる。
2. 自職種の役割を説明できる。

3. 他職種（他学部）に影響しうる自職種（自学部）の行動を分析できる。

他職種の理解

1. 他職種の役割を説明できる。
2. 他職種（他学部）の価値観を分析できる。
3. 他職種（他学部）が働く職場環境・学習環境について説明できる。

社会における医療の役割の理解

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野も持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

社会保障

憲法で定められた「生存権」を守る社会保障制度、公衆衛生とは何か、地域保健、産業保健、健康危機管理を理解する。保健統計の意義・利用法を学ぶ。

公衆衛生

1. 健康及び公衆衛生の概念について説明できる。
2. 予防の段階と戦略について説明できる。
3. 健康づくり（ヘルスプロモーション）の概念について説明できる。
4. 障害の概念を説明できる。
5. 地域診断、PDCA サイクルなど、公衆衛生の展開方法について説明できる。
6. ボランティア、NPO、地域共生社会、社会的処方について説明できる予防の段階と戦略について説明できる。

社会保険、公的扶助、社会福祉

1. 生存権などの健康に関する基本的人権と社会保障について説明できる。
2. 国民皆保険としての社会保険（医療保険、介護保険）と診療報酬・介護報酬の制度について説明できる。
3. 公的扶助、社会福祉について説明できる。

地域保健

1. 保健所・市町村保健センター・地方衛生研究所の役割、地域保健法など、地域保健体制について説明できる。
2. 「国民の健康づくり運動」（健康日本 21 含む）、健康増進法など、健康増進施策について説明できる。
3. 母子保健法、母体保護法、児童福祉法、児童虐待防止法など、母子保健施策について説明できる。
4. 学校医、学校感染症、学校保健安全法など、学校保健について説明できる。

5. 特定健康診査・特定保健指導、高齢者の医療の確保に関する法律（高齢者医療確保法）など、成人及び高齢者保健施策（介護予防含む）について説明できる。
6. がん対策基本法、がん登録等の推進に関する法律など、がん対策について説明できる。
7. 栄養摂取基準、保健機能食品、食育基本法など、栄養施策について説明できる。
8. 精神保健福祉法、自殺対策基本法など、精神衛生・心の健康に関する施策について説明できる。
9. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）など障がい者福祉について説明できる。
10. 8020、フッ化物の利用、全身の健康との関連など、歯科保健施策について説明できる。
11. 食品衛生法、食品営業、食中毒の状況など、食品衛生施策について説明できる。
12. 水道、建築物における衛生的環境の確保に関する法律（建築物衛生法）、住宅環境など、生活環境衛生施策について説明できる。
13. 環境基本法、公害、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）など、環境保全施策について説明できる。
14. 地域職域連携、健康経営など、産業保健との連携について説明できる。

産業保健

1. 産業保健の意義、労働衛生の3管理など、産業保健の基本的な考え方について説明できる。
2. 産業医の選任義務、労働安全衛生法、労働基準法など、産業保健の基本的な法令について説明できる。
3. 労働災害及び職業性疾病とその対策について説明できる。
4. 有害物質による産業中毒とその対策について説明できる。

健康危機管理

1. 健康危機の概念と種類、それらへの対応について説明できる
2. 健康危機時のリスクコミュニケーションについて説明できる。
3. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）、検疫法、予防接種法、新型インフルエンザ等対策特別措置法など、感染症対策について説明できる
4. 災害対策基本法、災害救助法など、自然災害の対応について説明できる。
5. 災害拠点病院、種々の活動チームなど、災害保健医療について説明できる。
6. 放射線事故、テロリズム、国民保護法の適用事象など種々の健康危機の種類別の対応について説明できる。

保健統計

1. 主な人口統計（人口静態と人口動態）、疾病・障害の分類・統計（疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems〈ICD〉等）を説明できる。
2. 平均寿命、健康寿命を説明できる。
3. e-Stat（政府統計の窓口）を利用できる。

疫学・医学統計

人間集団を対象とする研究方法である疫学の考え方と意義、主な研究デザインを学ぶ。医学、生物学における統計手法の基本的な考え方を理解する。

疫学

1. 疫学の概念・定義を説明できる。
2. 公衆衛生と臨床のそれぞれにおける疫学の役割を説明できる。
3. 罹患率と有病割合（率）を説明できる。
4. 代表的な疫学指標を説明できる（リスク、リスク比、リスク差、オッズ比）。
5. 主なバイアスを（例をあげて）説明できる。
6. 交絡を（例をあげて）説明できる。
7. 年齢調整率と標準化死亡比（standardized mortality ratio: SMR）を説明できる。
8. 代表的な疫学研究を（例をあげて）説明できる。
9. 主な疫学の研究デザインを説明できる（観察研究〔記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究〕、介入研究（ランダム化比較試験等）を概説できる。
10. 感染症の基本再生産数と実効再生産数を説明できる。
11. 流行（エピデミック）および汎世界的流行（パンデミック）を例をあげて説明できる。
12. 集団免疫の意味を述べ、集団免疫閾値について説明できる。
13. 不確実性を含む、限られた情報を評価し、人間の生命や健康を守る意思決定につなげていくには何が必要かを考えることができる。

データ解析と統計手法

1. 欠測値が生じないようにデータ収集の方法を設計でき、生じた場合はその対応（代入法など）ができる。
2. データの記述と要約（記述統計含む）ができる。
3. 正規分布の母平均の信頼区間を説明できる。
4. 単変量解析と多変量解析の意義を説明できる。

法医学

死の判定や死亡診断と死体検案を理解する。

死と法

1. 植物状態、脳死、心臓死及び脳死判定を説明できる。
2. 異状死・異状死体の取扱いと死体検案を説明できる。
3. 死亡診断書と死体検案書を作成できる。
4. 個人識別の方法を説明できる。

5. 病理解剖、法理解剖（司法解剖、行政解剖、死因・身元調査法解剖、承諾解剖）を説明できる。

社会の構造や変化から捉える医療

患者の抱える健康に関する問題の背景にある社会的な課題を適切に捉え、その解決のために積極的に行動する。

社会格差と医療

1. 社会的弱者の立場にある患者の代弁者となることができる
2. 社会格差を解消するために社会に対して行動できる

健康と医療

1. 健康寿命を延ばすために生活者への積極的な働きかけを行うことができる
2. バリヤフリーなどの障害と社会環境に関連する概念を理解した行動をとることができる

ジェンダーと医療

1. 女性やLGBTに対する差別などのジェンダー不平等をなくすために積極的な行動をとることができる

気候変動と医療

1. 気候変動と医療との関係性を理解できる
2. 患者が抱える健康に関する課題と気候変動との関係を想像できる
3. 地球環境が抱える諸課題を認識し、その解決のために行動できる

哲学・倫理と医療

1. 現代思想・哲学・倫理学の語彙を概説することができる
2. 診療現場における倫理的問題について適切に考えて対応できる

歴史と医学・医療

1. 医学・医療の歴史の変遷について概説できる。
2. 現代の医学的問題について過去の歴史を用いて相対化できる。

国内外の視点から捉える医療

国内、及び、国際社会の中で規定される医療の役割と医療体制について概説できる。

国内の医療職の役割や医療体制

1. 医師法が定める医師の職権と義務を説明できる

2. 医療職を規定する法律・制度について列挙できる。
3. 医療法が定める医療施設について列挙できる。
4. 地域医療計画について説明できる。

グローバルヘルスの役割や医療体制

1. 国際的に援助が必要とされる医療・健康課題の歴史・社会的背景を知る

グローバルヘルスの役割や医療体制

1. グローバルヘルス領域での母子に関わる医療・健康問題について挙げることができる
2. 国際的に問題となっている感染症・非感染性疾患とその対策について列挙できる。
3. UHC(Universal health coverage) とは何かを概説し、各国の医療制度が抱える問題を例示できる
4. 保健関連 SDG や国際援助組織について列挙できる

社会科学の視点から捉える医療

医学的・文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人びとの言動・関係性を理解し、社会科学（主に医療人類学・医療社会学）の視点から、それを臨床実践に活用することができる。

社会科学と医療との関係

1. 社会科学（主に医療人類学や医療社会学）の基本的な視点・方法・理論を用いることができる
2. 医療に関する諸事象をシステム論の観点から社会の諸制度との関わりのなかで捉え、構造的に説明できる
3. 人びとの生活の場において健康・病気・死とそれらをめぐる医療がどのようにとらえられているかを探索することを通じて、予防医学や健康維持増進、在宅療養・入院・施設入所等の関係について総合的に考察できる。